

へき地・地域医療に従事しながら上達する救急超音波と「POCUS」

本多 英喜

横須賀市立うわまち病院 救急総合診療部 救命救急センター

自治医科大学を卒業後もうすぐ30年になりますが、この度、様々な地域で得られた経験を次の世代に伝える機会が与えられたことに感謝します。今回のキーワードは、「へき地医療・地域医療」、「救急医療」、「超音波検査」の3つです。「へき地医療・地域医療」と「救急医療」の診療スタイルは同じであり、特に救急患者では医療者側が能動的に患者さんから発する情報（病歴や身体所見）をもとに医学的判断を下すことが必要であり、より多くの身体所見や体内の状態を知ることができる超音波検査は診察技法（視診、聴診、打診、触診、超音波診）としても有用な手段と考えます。

私のへき地医療で得た経験は①「へき地医療・地域医療×救急医療」、②「へき地医療・地域医療×超音波検査」、③「救急医療×超音波検査」パターンに集約して有用性を実感しつつ、さらなる自己研鑽を続けています。最近「POCUS」という超音波検査において新たな概念が普及してきましたが、これらの内容は私たちのようにへき地・地域医療に従事してきた医師にとっては、難しく考えて構える必要はありません。これまでの通常診療の中で実践してきた内容を振り返り、トラブルシューティングを含めてまずは知識量を増やすことで対応できます。今回のセミナーは限られた時間の中ですが、超音波検査の「基礎のキ」を学び、超音波検査の関する知識の土台から様々な手技を身に着けるノウハウの一部を紹介します。

【略歴】

1993年	自治医科大学 医学部卒業
1993年	日赤熊本病院 スーパーローテート研修
1995年	熊本県大矢野町（現上天草市）湯島へき地診療所
1997年	熊本県球磨郡公立多良木病院 古屋敷診療所兼務
2000年	久留米大学病院 高度救命救急センター
2001年	熊本県河浦町立病院
2002年	済生会熊本病院 救急センター
2003年	横須賀市立うわまち病院 救急総合診療部
2012年	横須賀市立うわまち病院 救命救急センター
2020年	横須賀市立うわまち病院 総合診療センター開設
2022年現在	横須賀市立うわまち病院 副院長 救命救急センター長 総合診療副センター長 救急総合診療部 部長 公益社団法人 地域医療振興協会 上席執行役員 横浜市立大学 救急医学非常勤講師 神奈川歯科大学 口腔外科 特任教授